

2月24日(金) 花乃井中学校より Teams 配信

大阪市立中学校教育研究会特別支援教育部
大阪市中学校特別支援教育担任者会

令和4年度 大阪市立中学校教育研究会特別支援教育部 年度末研修報告会/担任者会

研究主題：子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして

時程

| 5:00 あいさつ 大阪市立中学校教育研究会特別支援教育部

部長 大阪市立矢田西中学校 金森 茂生 校長

| 5:05 担任者会

| 5:30 年度末研修報告会

発表① 検査結果の正しい理解と活用 ~ブロック研究発表会を受けて~

大阪市立矢田中学校 塚本 一清 先生

大阪市立阿倍野中学校 浦野 莉佳 先生

発表② 大和川中学校の取り組み

大阪市立大和川中学校 山陰 里奈 先生

| 6:30 休憩 休憩中にチャットにて質問を受付けます

| 6:40 質疑応答

| 6:50 指導助言 大阪市教育委員会指導部インクルーシブ教育推進担当

井澤 陽子 指導主事

| 7:00 事務連絡

第4 教育ブロック

検査結果の正しい理解と活用

～ブロック研究発表会を受けて～

大阪市立矢田中学校 塚本 一清
大阪市立阿倍野中学校 浦野 莉佳

I 実践にあたって

確かな生徒理解のために～検査結果の正しい理解と活用～の講演をお聴きして

II 実践内容

I 検査結果の活用と実践

(1) 矢田中学校の実践内容

- ①心理検査の結果と本校の実態をふまえた子ども理解への取り組みについて
- ②まとめ

(2) 阿倍野中学校の実践内容

- ①Iさんの事例
- ②まとめ

第3教育ブロック

大和川中学校の取り組み

大阪府大阪市立大和川中学校 山蔭 里奈

I 実践にあたって

現在、大和川中学校では特別支援学級に在籍している生徒が 27 名いる。特別支援学級に在籍している生徒が安心して通えるようにするために、いくつかの取り組みをしている。大和川中学校の取り組みや体制を紹介する。

II 実践内容

1 安心できる空間作り

- (1) 特別支援学級で使える教室を3つ用意。集団が苦手な生徒や、別室で落ち着く時間が必要な生徒のために、いつでも使えるように準備している。
- (2) 正門以外の門を使えるようにしている。裏門などの別の門を使えるようにすることで、特別支援学級に直接登校しやすいようにしている。

2 ICT 活用

- (1) クラスに入る準備段階として、教室に入れない生徒のために、特別支援学級の教室で1人1台の端末を使ってリモート授業を受けられるようにしている。リモート授業で理解できなかったところなどは、教科の先生から直接教えてもらえるようにしている。
- (2) AI ドリル(navima)を活用して個々にあったペースで学習を進めている。AI ドリル(navima)は進めるごとにコインがもらえるなど、生徒たちが達成感を感じられやすいようになっており、意欲的に取り組むことができる。

3 充実した学習の場作り

- (1) 教科教員と連携をし、特別支援学級で授業を行っている。特別支援学級教員では教えられない専門的な知識やノウハウを活用して授業を行う。この授業を楽しみにして登校する生徒もいる。
- (2) 食育として一から畑を作り、野菜を収穫し、調理するところまで行っている。他学年ともコミュニケーションを取りながら協力して取り組んでいる。屋外での活動は気分転換にもなり、生徒も積極的に動いている。

III 成果と今後の課題

これらの取り組みの中で、達成感を感じたり、他の生徒とコミュニケーションを取れるようになったりすることで学校が楽しいと感じる生徒が増え、登校時間や登校日数が増えた。これらの取り組みは、不登校生徒にも効果的だった。

本校の特別支援学級から特別支援学校や高等支援学校へ進学する生徒は少なく、多くの生徒が高等専修学校や高等学校に進学する。このことを考えると、今後は、登校時間や登校日数を増やすことができた生徒の学びの保障をより充実させていかなければならない。